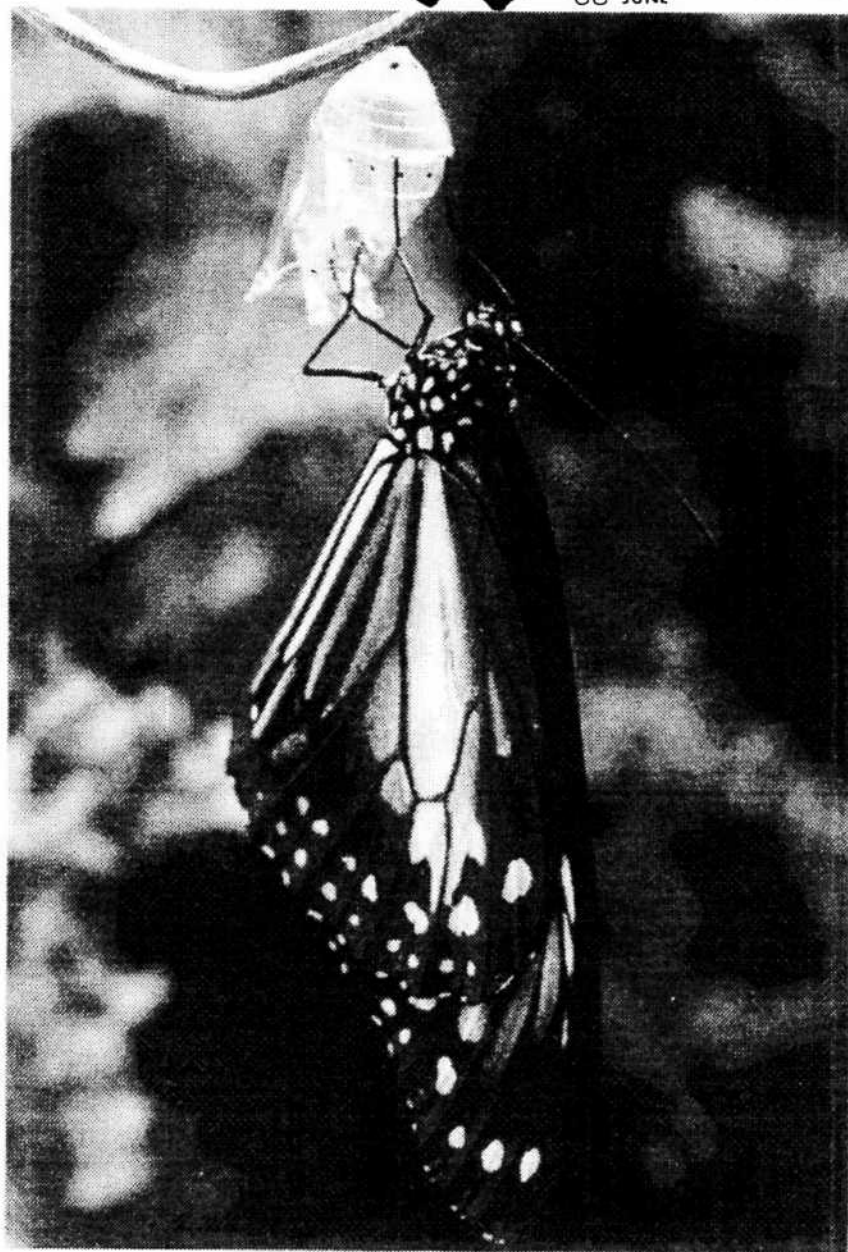


翔

NO.70

'88 JUNE



Butterfly

Beetle

Insect

百万石蝶談会

ミスジチョウを採幼

松井正人

今春は、少ないながら各地でミスジチョウの幼虫を採集しているので、報告する。

✧ 金沢市医王山

箱矢谷出合よりやや上流の豊吉川河畔で、川面へ大きく張り出したカエデより採集した。この辺りは割と急峻な地形である。

1988年4月16日 1幼 金沢市医王山豊吉川 松井正人

✧ 河内村金間

直海谷川へ注ぎ込む小さな沢で、大きく枝を張った1本のカエデから3頭採集した。この木の下には何も生えてなく、広い空間があった。

1988年4月2日 3幼 河内村金間 松井正人

✧ 鳥越村三瀬

大日川へ流れ込む小さな沢で、岩壁の下の小さなカエデや林縁のカエデから採集した。また、越冬状態のまま黒く変色して死んでいる1幼も確認した。

1988年4月10日 3幼 鳥越村三瀬 松井正人

✧ 小松市丸山

丸山から尾小屋へ抜ける谷沿いの道路を歩きながら、道路脇のカエデより採集した。樹高1mに満たない小さなカエデからも採集できた。またここでは、1巣より2幼を得る事もできた。

1988年4月10日 4幼 小松市丸山熊谷 松井正人

✧ 小松市大杉

牛首峠より大杉側へ下り、途中の谷に入ってみた。川面へ大きく張り出したカエデに越冬巣は無く、この木の根本より伸びた小さなカエデから採集した。採集したカエデは林内の環境にあり、回りには空間が無かった。

1988年4月10日 1幼 小松市大杉 松井正人

✧ 小松市光谷

集落跡付近で、谷に大きく張り出したカエデより採集した。枝先に付いた越冬巣は風に吹かれて、プラプラゆれていた。

1988年4月17日 1幼 小松市光谷 松井正人

✧ 山中町鶴ヶ滝

滝の上部は緩やかな流れで水量も少なく、川の中を歩きながら採集した。空の巣2個、ひからびた幼虫の付いた巣2個も確認した。

1988年4月3日 2幼 山中町鶴ヶ滝 松井正人

小赤谷にてギフチョウ成虫を採集

嗟 峨 井 淳 郎

ギフチョウ類に関する研究は、日本産の中で一番進んでいると、もう誰もが認めるところである。石川県における分布調査は、いまや松井氏ただ一人しか実行していないと言っても過言ではなく、氏による成虫の分布、あるいはカンアオイ等食草の分布状況調査は“翔”の各号に詳しい。

松井氏により、白峰村白峰、及び赤谷でギフチョウ卵が数卵塊発見された情報を元に、白峰村産のギフチョウ成虫を採りたい一念で、赤谷を訪れた。この地は、過去にメスアカミドリ、アイノミドリ等のゼフ卵を求めて何回か調査に入った所ではあるが、前述のとおりギフチョウに関しては、松井氏しか調査しておらず、まだまだこれからといった未調査の地である。赤谷川、小赤谷川とも以前に職場の同僚と何回か山菜採りに入山したことがあり、膝上10cm程度の赤谷川を対岸へ渡ればゼンマイの宝庫である。しかし、動物の糞やザゼンソウをエグリ取ったような跡を見つけたりすると、少々背筋が寒くなってくる。10分～15分程度沢筋をつめるとシャクナゲの大木が目につき、ピンクに染まった可憐な花を見つめれば、熊がいることなんぞ忘れてしまう。

松井氏発見の場所はすぐわかり、伐採跡の2～3m程に成長した杉植林地は、きれいに雑木が刈りとられていて、ギフ採集には最適な所である。天候、気温はまずまずであったが、現地到着が昼過ぎだったためか、1時間半の間に6～7頭目撃したのみ。採集できたのは4♂♂であった。

この春、辰口や金沢では天候不順で、雪の無い割には例年とあまり変わらない発生状況であったが、この地では逆に早く発生していたように想像され、採集個体全て尾状突起破損等の傷み、スレがあり、完全品は採集できなかった。食草と思われるヒメカンアオイは、林床、川縁に多く見られ、大きな株状に生えていて、食草量は豊富であると思われる。

ギフチョウ 1988年5月2日 石川郡白峰村小赤谷 4♂♂ 嗟峨井淳郎

医王山産 ゼフ成虫 採集難易度	
Aランク(極珍)	ウラナミアカ、ムモンアカ
Bランク(珍)	メスアカミドリ
Cランク(少)	フジミドリ、オナガシジミ、ウラゴマダラ、 オオミドリ、ウスイロオナガ
Dランク(普)	アカシジミ、ジョウザンミドリ、アイノミドリ、 エゾミドリ、ミドリシジミ、ウラキン、ウラクロ、 ウラミスジ、ミズイロオナガ

白峰村のギフチョウ

勝海雅夫

1988年4月30日、白峰村のギフチョウを見たくて見たくて、仕方無しに無理やり鶴来方面に仕事を作り、R157をひたすら白峰村へ走る事にした。

現地へは、4月24日に一度訪れているが、天気が悪く、1頭も見ることができなかった。例年だと4月24日頃がピークの様で、昨年は4月22日頃がピーク。適期は4月20日～4月25日頃の様です。

当日は天候も良く、AM 10:30 頃到着。社有車である為に人目を避ける様にひっそりと駐車し、いざ”出陣”と思しし時、嗟峨井大先輩の御車が御旗を掲げ、威風堂々と坂道を上がって来られるでは有りませんか。大先輩とは、4月15日(土)金沢市二俣で御会いしてから、今春2度目。氏のギフチョウ攻めへの意欲が十分理解出来る再会でした。結果は、業務上過失致死に至らしめたギフチョウが3♂♂と、やはり大先輩を前に遠慮(単に腕が悪いだけ?)した形になってしまいました。

この地のギフチョウ♂の尾状突起は、昨年採集した個体を見た限りでは、長いと思っていたのですが、今年の採集品を見るとちょっと…。詳しい産地別の個体比較は、次号に発表を予定しています。乞 御期待

短 報 13

ギフチョウ

1988年4月2日	小松市鶴川	1♂	松井正人
1988年4月3日	小松市鶴川	7♂♂	吉村久貴
1988年4月3日	辰口町金剛寺	2頭目撃	松井正人
1988年4月3日	辰口町和気	2♂	嗟峨井淳郎
1988年4月3日	辰口町湯屋	1♂	嗟峨井淳郎
1988年4月5日	金沢市野田山	3頭目撃	中西朱美
1988年4月30日	白峰村白峰	3♂♂	勝海雅夫
1988年5月1日	尾口村鶴谷	1頭目撃	竹谷宏二
1988年5月2日	白峰村小赤谷	4♂♂	嗟峨井淳郎

ウスバシロチョウ

1988年5月28日	輪島市男女滝	1♂	松井正人
1988年5月28日	輪島市小	5♂♂	松井正人
1988年5月28日	輪島市上黒川	2♂♂	松井正人
1988年5月28日	門前町西丸山	5♂♂	松井正人

石川県の珍蝶

松井正人

石川県には112種の多様な蝶が生息している(迷蝶は含まない)。この中には、各地に広く分布している種もあれば、一部地域だけに分布している種、更には数例の記録しかない種もある。この数例の種、すなわち県内で最も珍しい種を紹介する。この報文を書くにあたり、重要な未発表データを提供して下さった木村富至、竹谷宏二の両氏、快く8ミリフィルムを御貸し頂いた安田信夫氏、文献をお世話頂いた、斉藤洋一、水野透、吉村久貴、澤田博、嗟峨井淳郎、竹谷宏二の各氏と早稲田大学生物同好会の皆様に感謝致します。(迷蝶としては、ツマグロキチョウ、スジグロカバマダラ、カバマダラ、ナガサキアゲハ、アオタテハモドキ、クロコノマが記録されている。)

✧ クロシジミ

二又新は犀川ダムに没しており、データの全ては犀川ダム周辺で記録されている。1978年の再発見以降、同地は盛んに調査されたが、その後は発見されていない。雑木林を伐採して2~3年経った林に多く見られることから、このような場所を捜すと再発見の可能性が高い。

1957年 7月14日	金沢市日尾	1♀	今井宏三・他	(2)
1958年 7月29日	金沢市二又新	1♀	中村 繁	(15)
1958年 8月 4日	金沢市二又新	1♂1♀	中村 繁	(15)
1978年 7月18日	金沢市見定	1♀採1♂目	吉村久貴	(8)

✧ ヒメシジミ

一部地域に割と普通に見られるアサマシジミと数例の記録しかないヒメシジミの取り合せ、全国的に見ればまことに不思議な話である。記録のほとんどは単発偶産的なものであるが、三又発電所の記録は発生地の可能性が強い。しかしながらその後の調査にも関わらず、発電所付近では発見されていない。木村富至氏は本来の発生地を、発電所から中の川をいくらか遡った河原かガケと予想している(私信)。

1977年 7月 2日	吉野谷村中宮温泉	1♂	松井正人	(5)
1977年 7月 6日	吉野谷村中宮温泉	1♂	三上秀彦	(21)
1978年 7月 9日	吉野谷村中宮	1♂目撃	竹谷宏二	(6)
1978年 7月22日	白峰村白山中飯場	1♀目撃	竹谷宏二	(6)
1979年 7月 5日	吉野谷村蛇谷	1♂	金平永二	(9)
1982年 6月19日	吉野谷村中宮	1♂目撃	竹谷宏二	(10)
1984年 7月15日	尾口村岩間~新岩間	1♀	木村富至	
1984年 7月15日	尾口村三又発電所	1♂1♀採数日	木村富至	

✧ ミヤマシジミ

かつては手取川の河川敷に豊産したらしいが、最近の記録は全くない。1973年以降数年は盛んに調査されたが、発見に至っていない。食草のコマツナギはビッシリと群生している事から、河川改修や、野焼きによる絶滅が噂されている。

1961年 9月23日	手取川辰口大橋	1♂1♀14頭	富沢 章・他	(4)
1973年10月27日	手取川	2♂	大野 豊	(4)

✧ ムラサキシジミ

稀に採集されているが、広い地域に薄く分布しているようである。1983年は各種の蝶ともども本種も豊作のようで、各地で記録されている。このような分布の薄い種の調査は、豊作の年に集中して行う事が有効だと思われる。

4月	金沢市倉ヶ岳		泉丘高校生物部	(1)
5月	金沢市倉ヶ岳		泉丘高校生物部	(1)
1951年 6月24日	金沢市大辻山	1♂	小倉住夫	(13)
1957年 8月26日	金沢市医王山		手塚正一	(14)
1983年 6月22日	金沢市医王山菱広峠	1♀	勝海雅夫	(12)
1983年 6月30日	山中町我谷	1頭目撃	竹谷宏二	(11)
1983年 8月21日	小松市大倉岳中腹	1♂	中山佐一郎	(20)

✧ ギンボシヒョウモン

全て白山地域で記録されているが、確実な記録は1例のみかと思われる。ヒョウモン類は紛らわしく、他の普通種と見誤っているものもあると思われるので、採集し、確実に同定すれば、記録は増えると思われる。

7月	白峰村市の瀬		泉丘高校生物部	(1)
1962年	白峰村白山二の越		泉丘高校生物部	(17)
1975年 8月 1日	白峰村白山三の峰	1頭		(18)
1979年 7月 8日	尾口村岩間温泉	1♂	山岡万寿夫	(22)

✧ エルタテハ

全て白山地域で記録されている。丸石谷の記録は、林道上の重油(?)のシミに来ていたもの、北竜馬場はダケカンバの幹に止まっていたもの、室堂は室堂の屋根に止まっていたものがトイレ付近に舞い降り、吸汁し始めたものがそれぞれ記録されている。六兵衛茶屋は別山天池付近。

1953年 7月27日	白峰村白山六兵衛茶屋	1頭	北浦亀松	(3)
1958年 7月28日	白峰村白山室堂平	1頭	村中泰次	(3)
1958年 8月 4日	白峰村白山別当出合	1頭	村中泰次	(3)
1979年 8月 5日	白峰村白山甚之助小屋	1頭目撃	竹谷宏二	(6)
1980年 8月24日	尾口村丸石谷	1♂	松井正人	
1985年 7月28日	尾口村白山北竜馬場	1頭目撃	竹谷宏二	
1985年 7月29日	白峰村白山室堂	1頭目撃	竹谷宏二	

コヒオドシ

白山地域の目撃記録しかない。しかし1979年に撮られた安田信夫氏の8ミリフィルムは、はっきりとコヒオドシと確認できるもので、白山に分布することは間違いない。しかし、本種は特別保護地区によって守られている為、はっきりしたデータを作るには、低地におりる春先を狙うしかない。1962年、1979年、1984年の記録はいずれも花に来ているもの(1984年はコバイケイソウ)が目撃されている。

1962年 8月 5日	白峰村白山藪野屋〜飛ヶ原	5頭目撃	田中 蕃・他	(16)
1969年 7月	白峰村白山御前峰	目撃	澤田 博	(7)
1970年 7月	白峰村白山観光新道	目撃	澤田 博	(7)
1975年 8月 1日	白峰村白山三の峰〜淵	2頭目撃		(18)
1979年 7月31日	白峰村白山室堂平	1頭目撃	安田信夫	(19)
1984年 7月30日	白峰村白山別山天池	1頭目撃	竹谷宏二	

参考文献

- (1) 泉丘高校生物部昆虫班(1957) とっくりばち (5):10~12
- (2) 今井宏三・他(1957) とっくりばち (5):9
- (3) 武藤 明(1959) とっくりばち (8):21~23
- (4) 富沢 章(1975) とっくりばち (30/31):5
- (5) 松井正人(1978) とっくりばち (41):2
- (6) 竹谷宏二(1979) とっくりばち (43):6
- (7) 武藤 明(1971) 石川むしの会特別報告 (2):9
- (8) 吉村久貴(1978) 翔 (2):4
- (9) 金平永二(1979) 翔 (8):5~7
- (10) 竹谷宏二(1984) 翔 (44):1~3
- (11) 竹谷宏二(1985) 翔 (50):13~14
- (12) 勝海雅夫(1985) 翔 (51):1
- (13) 小倉住夫(1953) 新昆虫 6(11):30~31
- (14) 武藤 明(1958) 新昆虫 11(3):39~40
- (15) 武藤 明(1959) 新昆虫 12(5/6):40~41
- (16) 田中蕃・他(1963) 佳香蝶 14(52):90~96
- (17) 武藤 明(1971) 生物研究 15(1/2):20~21
- (18) 早稲田大学生物同好会(1976) 早稲田生物 (18):41~45
- (19) 安田信夫(1979) 昆虫と自然 14(14):13~14
- (20) 中山佐一郎(1984) 小松市立博物館研究紀要 (21):26~30
- (21) 三上秀彦(1986) 蝶研フィールド 1(4):26~27
- (22) 山岡万寿夫(1986) 蝶研フィールド 1(4):30

ススキを食べていたヒメジャノメの記録

松井 正人

1988年5月14日吉野谷村下吉野で、ススキを食べているヒメジャノメを確認した。

雑木林を流れる用水に沿って、ススキの大きな株がたくさんあり、1m程に伸びていた。これらの別々の株より、3頭の終齢幼虫を確認したが、1頭には黒いシミがあり、寄生されているようだった。寄生されていない1頭を採集してきたところ、4日後に蛹化した。ところがこれも寄生されていて、5月26日に寄生蠅が羽出した。

長野県開田村のヤツボシシロカミキリについて

井村 正行

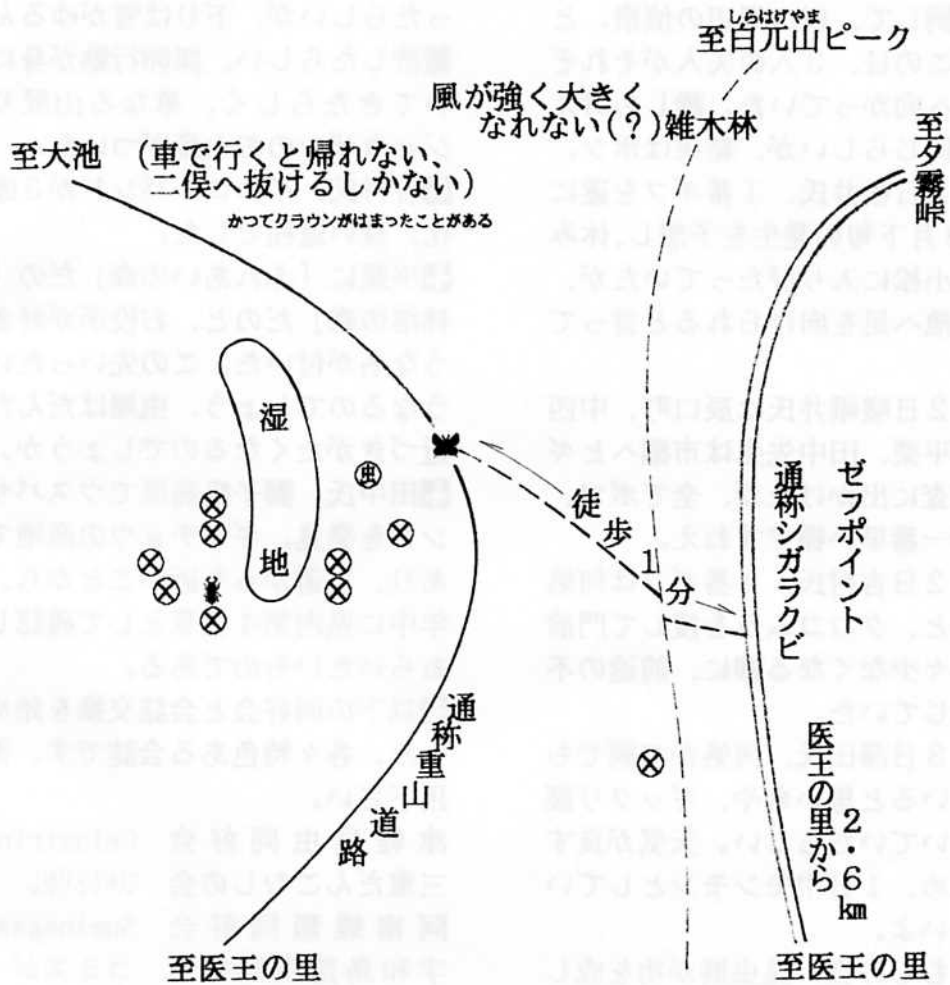
1987年5月5日、木曾の開田高原へヤツボシシロの材採集に出かけた。同地一帯の河川沿いには、ホストのズミがいたるところで見られた。比較的新しい伐採木に食害が見られ、本種がついている枯枝は、直径1~10cm位までのものであった。幼虫の食痕は、樹皮下に1cm位の幅で不定形に見られ、蛹室は材の細いものでは中心部に、太いものでは1~2cm程、材に入り込んで見られた。蛹室の入口は荒い木屑で塞がれ、脱出口と兼用しているようである。材採集時は既に蛹で、頭部は脱出口を向いていた。

採集した材より、6月に50頭以上もの本種が羽脱してきた。また、材の細いものからは、コジマヒゲナガコバネ、太いものからは、キモンカミキリ、シラホシカミキリ、ニセビロード、ヒメヒゲナガカミキリ等も羽脱してきた。

医王山産 カミキリ 採集難易度

Aランク(極珍)	ソボリンゴ
Bランク(珍)	クリストフコトラ、フタコブルリハナ
Cランク(少)	クスベニ、クリサビ、チャイロホソヒラタ、クロトラ、ムネマダラトラ、アオ
Dランク(普)	シロスジ、ミヤマ、リンゴ、ホソトラ、トゲヒゲトラ、ミワヒメハナ、ハネビロハナ、ムネアカクロハナ、ゴマダラ、ビロード、ニセビロード、マヤサン
Eランク(極普)	エゾサビ、アトモンサビ、ヒメヒゲナガ、ホタル、エグリトラ、シラケトラ、ゴマフ

医王山ムモンアカシジミ調査マップ



- == 林道(砂利道)
- 私道(無理をすれば車通行可、ただしキズだらけになる)
- 登山道

- 1987年8月8日、澤田 博氏による1♂採集ポイント
- ⊕ アリがゾロゾロ這い上がり、アブラムシベッタリのみズナラ
- ✦ アリがチョロチョロ這い上がっているみズナラ
- ⊗ アリが這い上がった形跡があるみズナラ

金沢で唯一のムモンアカシジミポイント、是が非でも発生木

を捜したい

会員の動き・しゃばの動き

☛4月1日快晴、1番ギフが飛びそうな日和。しかし金曜日。カミさんを拝み倒して、辰口周辺の偵察。ところがこの日、3人の夫人がそれぞれ辰口へ向かっていた。誰しも考える事は同じらしいが、結果はボツ。

☛4月2日松井氏、1番ギフを遂に確認。3月下旬の発生を予想し、休みの日は小松に入りびたっていたが、これで他へ足を向けられると言っていた。

☛4月2日嗟峨井氏は辰口町、中西夫人は平栗、田中先生は市瀬へとギフの調査に出かけたが、全てボツ。小松が一番早い様ですねえ。

☛4月2日吉村氏、1番ギフは何処吹く風と、クロコムラを捜して門前へ。年々少なくなる柳に、前途の不安を感じていた。

☛4月3日澤田氏、何処かで網でも振っていると思いきや、ギックリ腰でうめいていたらしい。天気が良いすぎたため、1日中モンモンとしていたらしいよ。

☛越中むしの会、昆虫展が功を成したらしく、昨年なんとバリバリの新人が5人も入り、一気に活気づいている。このところ寂しかった例会も、多いに盛り上がっているらしい。

蝶談会も、新聞、雑誌へと、新人獲得作戦を展開中だが、全く手応えなし。

☛「アリにも個性がある？こう考えると観察が楽しくなる」とは小幡氏の弁。インセクタリウム4月号に、氏の「クロオオアリの巣造り」写真が載っている。

☛4月10日田中氏、湯涌温泉から高尾山へ。雪の上をスイスイ登っていったらしいが、下りは雪がゆるんで難渋したらしい。採卵行動が身に付いてきたらしく、単なる山登りにジョウザンのお土産がついた。

☛吉村氏、イエローバンドが3頭羽化。長い道程でした。

☛平栗に「ふれあいの森」だの「森林浴の森」だのと、お役所が好きそうな名が付いた。この先いったいどうなるのでしょうか。虫屋はだんだん近づきがたくなるのでしょうか。

☛田中氏、獅子吼高原でウスバサイシンを発見。ギフチョウの産地でもあり、車道からも近いことから、今年中に県内第4食草として確認してもらいたいものである。

☛以下の同好会と会誌交換を始めました。各々特色ある会誌です。御利用下さい。

津軽昆虫同好会 Celastrina

三重だんごむしの会 ひぐとりむし

阿南蝶類同好会 Suminagashi

宇和島昆虫同好会 コミスジ

但馬むしの会 IRATSUME

大阪のアサギマダラを調べる会

We Love アサギマダラ情報

☛4月14日中西氏、台湾へ出発。3泊4日の予定だが、栗島の前例が有り、はたして何泊になる事やら。

☛嗟峨井氏の2女、彩ちゃん、今年はギフチョウの飼育に挑戦。このまま順調に育って、むしめずる姫となって欲しいと願うのは他人だけだろうか。

■田中氏、嵯峨井邸の庭をのぞいた日から、自宅の庭も食草園に改造したくなったらしい。現在キハダの小木を探している。

■蝶研フィールド「いい湯いい蝶」に湯涌温泉登場。平栗は採集禁止じゃないけれど、カンパンが立って以来、網をふると悪者にされる。こんな所はほっといて、湯涌温泉。イイネエ。昔は天皇陛下も泊まったらしいが、今じゃさみしい限り。これで旅館も一息つけるとありがたい限り。

■4月17日中西氏、帰国。台湾の夜は最高で、完全夜行性型へと変身してしまい、太陽がまぶしかったらしい。帰国後は夜間作業の連打とか。

■嵯峨井氏、今春はたいそうギフがお気に入りの様子。早いギフから遅いギフまで、全て足を運んでいるらしく、あちこちで目撃記録が続出している。

■4月29日吉村、勝海組、ヒメギフを狙う筈だったが、雨でボツ。吉村氏はパーパーハシバへ。虫屋は雨が降らないとトコヤへ行けない。いや行かないのかな。

■4月30日雨空の中、町へと向かっていたS氏の車、空が明るくなってきたので、突然白峰へとUターン。ポイントにはK氏も到着していて、2人で網を振った。ここのギフはビュンビュン飛ぶので、なかなか捕まらなかったらしい。

■5月1日竹谷氏、スギタニルリを見に鶉谷へ。例年の事ながらたくさんの個体が見られ、思う存分撮影を楽しんだ。帰路、ブナ林の横でギフチョウを目撃したらしい。

■カミキリ屋の井村氏、最近カミキリに行きずまりを感じたのか、キノコやランに手を出し始めた。玄関を覗くと、フウ、アツモリ、クマガイ、サルメン等が並び、庭には、エビネ、キエビネ、キリシマエビネ、ナツエビネ等が所狭しと植わっている。

■奥さんから見放され、止む無く傷心の思いで日本を離れた井沢氏、1月22日より長期にわたりインドネシアに滞在していたが、心のキズも癒え、そろそろ帰国するらしい。

■5月1日勝海氏、雨で順延になったヒメギフ採集行に出発。

■5月2日嵯峨井氏、午後から赤谷のギフを目指した。小赤谷まで足をのぼし、小1時間程で4♂を採集したが、時期既に遅く、ボロボロ。

■5月5日松井、田中の大場組、森本辺りで幼虫観察。オオヒ、ウラナミアカは見られたものの、オオミは頑張ったかい無く未発見。

■5月6日小幡氏、フッとブナ林が見たくなり、市の瀬方面へドライブ。別当出合で、ルリシジミよりちょっと色の濃いシジミを見たとか。

■5月12日白山は時ならぬ大雪に見舞われ、白峰もすっかり白くなった。スギタニルリやギフの卵は寒さに耐えられるだろうか。

■5月14日嵯峨井氏、駒帰でウスバシロの発生を確認後、津幡方面へ調査に出かけたが、未発見に終わった。ついでに宝達まで足を伸ばしたところ、1頭を目撃。

■5月19日井沢氏、帰国。吉村氏委託のウン十万もする珍品を携えての金沢入りは、6月10日過ぎの見通し。

5月15日井村氏の所で、累代飼育のオオチャイロハナがマユを作った。ところが、悪い癖でみんな割って中をのぞいてしまったらしい。発砲スチロールで蓋をしたと言ってるが、果たして正常な個体が羽化するかは、たいへん疑問。

5月22日宝立山へ向かった4人とオマケ、出発時はウスバシロ調査のカンバンを上げていたものの、現地入りするや、一斉にエビネを捜し始めた。ムシ屋の集団が、なぜかラン屋に変貌していたのである。果たして、この火付け役は、はたまた現地へ向かう車の中で何がささやかれていたのか。

5月22日井村氏のオオチャイロハナムグリ、発砲スチロール作戦が失敗し、3幼が死亡。わずかに1幼が蛹化。この蛹も羽化するかどうか。

例会の記録

4月8日(金)城南管工2Fにて、8時より開催。飲む機会が多い時期なので1日は外したものの、やはり金曜日は飲み会とぶつかる可能性が高く、出席率は低かった。

今回のみせびらかし標本は、指田氏自身が採集したテナゴコガネとフトオアゲハ。大学ではこわいヒゲ面も、この時ばかりは、にこやかそのものだった。

主な話題は、1番ギフは4月2日(松井)、ヒメギフ撮りにいきませんか(松田)、これがオナガカンアオイのアオジク(近藤)、4月の台湾は何が採れる(中西)、白山のコヒオドシは確実(澤田)。

出席者は澤田、近藤、松井、松田、勝海、指田、田辺、中西(2人)の9名。

目次

松井正人：ミスジチョウを採幼	1
嗟峨井淳郎：小赤谷にてギフチョウ成虫を採集	2
勝海雅夫：白峰村のギフチョウ	3
松井正人：石川県の珍蝶	4
松井正人：ススキを食べていたヒメジャノメの記録	7
井村正行：長野県開田村のヤツボシシロカミキリについて	7
松井正人：医王山ムモンアカシジミ調査マップ	8
編集部：会員の動き・しゃばの動き	9
編集部：例会の記録	11

とぶ NO.70

1988年6月4日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方
百万石蝶談会
☎ 0762-58-2727
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所